

自動車の変容・高度化に伴い、車両状態の把握及び車両の点検・整備の難易度が高くなっていることを踏まえ今後の安全確保策を検討

現状分析

1章 自動車を取り巻く状況

技術の変化

1. 自動運転技術搭載車の開発と普及

- ・運転支援技術の高度化や、自動運転車の開発、実証実験、市販化が各メーカー等により推進

2. 電動車の普及

- ・カーボンニュートラル対応に向けた更なる普及や部品の変化

3. 自動車のOBDの進展

- ・故障コード(DTC)活用による故障探求の必要性が増している
- ・技術の複雑化や収集可能なOBDデータの増加により、特に不具合/故障発生時の車両状態の理解、把握が難しくなっている

社会の変化

1. 少子高齢化に起因する諸課題

- ・高齢運転者の比率増加と高齢運転者における高い重大事故率
- ・地方部の過疎化・高齢化と公共交通サービス維持・確保の課題
- ・少子化の進行に伴う労働力人口減少と整備業界への影響

3. 自動車ユーザーの意識の変化

- ・長期使用車両の増加と同車両における高い不具合発生率
- ・「保有」から「シェアリング」への意識の変化
- ・自動車ユーザー側で乗車時の違和感に気付きにくい事象が増加
- ・自動車ユーザーの安全意識向上

2章 これまでの車両の安全確保策

内容

全体

- ・道路運送車両法のもと「設計・製造過程」と「使用過程」までの全ての場面における安全対策を推進
- ・特に「使用過程」について、今後の更なるOBD普及やデータ活用を見据えた体制の検討が求められている

使用過程の点検方法等

- ・不具合による事故防止や環境保全を目的に、ユーザーに義務付ける点検整備の基準(日常点検・定期点検)
- ・定期点検項目に「OBDの診断の結果」を追加及び1年ごとの点検義務化(令和3年10月～)
- ・OBD検査の実施(令和6年10月～)

不具合データの活用

- ・高度化した自動車に特有の構造等に起因する不具合が、今後増大していく可能性がある
- ・着実なりコール実施や情報提供のため連ラクダを作成・運用
- ・新技術の安全な使用のために啓発を推進

課題の特定／対応策の検討

3章 今後の方向性

目指すべき社会像
自動運転技術搭載車や
電動車等の
普及拡大に伴う
事故や不具合/故障の
未然防止及び発生時の
適切な対応が
可能となる社会

本検討会における
問題意識
OBDの活用等、
現在の技術開発動向等
を考慮した検討が必要
とされている

現状

1章 2章

対応の方向性

- ① 自動車関連情報の収集・分析の推進
- ② 自動車の点検整備の高度化・合理化の推進
- ③ ユーザーの自動車に対する正しい理解の促進

課題	検討アプローチ	検討結果	対応策
(1)OBDを活用した点検方法の導入 →OBD現在の技術レベルや今後の技術開発動向の把握が必要	(1)自動車メーカー等に対するOBDの動向調査の実施	(1)一部の点検方法ではセルフチェック機能搭載を確認また、OBD活用により点検方法の見直しが可能と見込まれるものを確認	車検等におけるOBD機能(所謂セルフチェック機能)を活用した新たな確認方法の導入等
論点① 点検方法等の検討 (2)使用過程車の故障コードを活用した不具合の分析 →整備事業者において点検整備等で検出された故障コード分析が必要	(2)使用過程車におけるスキャンツールの使用実績データの分析	(2)車両の使用年数や走行距離に係るDTCの傾向を確認一方、メーカー独自設定コードの存在を踏まえ今後も継続検討していく	電気自動車に特化した点検項目の見直し
(3)EVの点検項目のあり方 →自動車メーカー等のEV車両用の整備マニュアル等の整理により、点検方法の検討が必要	(3)EVの点検に係る情報の分析	(3)EVでは設定不要と考えられる点検内容を確認今後のEV普及・データ蓄積等による点検内容の追加の可能性を確認	Webサイト「自動車のリコール・不具合情報」(通称連ラクダ)の利便性向上に向けた改善
論点② データ活用策の検討 新機能搭載に伴い不具合拡大が見込まれる中、不具合/故障データの利活用に関する議論が不十分	不具合データの整理方法、データ利活用の方策の検討等に係る関係者との議論の推進	ユーザーの安全確保に資する情報提供の改善について関係者からの要望を確認	国交省制作の啓発動画のテーマ選定や動画内容の検討において官民での連携を強化

安全確保策

データ活用策